



お孫さんの成長ぶりをご覧いただきました…祖父母参観

1年に1度の祖父母参観。ご自身が経験された小学校の学びとはずいぶん変化しているとは思いますが、それでも夢中になって取り組む姿は昔も今も同じ。一生懸命な姿に安心されたようです。励ましや感謝のお言葉をたくさんいただきました。ありがとうございました。

お寄せいただいた感想は、手小学校ホームページに掲載しております。ぜひご覧ください。



手良の自然のなかでカレー作り・ウォークラリー…手良の自然に親しむ日



仙丈班(縦割り班)活動で最も大きな行事、手良の自然に親しむ日が行われました。

全てのグループが予定の時間内に完成し、おいしいカレーをいただきました。

午後はウォークラリー、今年のコースは手良・中坪方面です。交通安全に十分注意して、仙丈班ごといくつかのチェックポイントを巡りました。およそ2時間近く巡るので、ゴールしたみなさんは少々お疲れの様子。高学年のみなさんは安全への配慮で気疲れもあったようです。

中心になって準備や活動を進めてくれた4, 5, 6年生のみなさんに感謝です。

「お箸の心」…校長講話

今日は、「お箸の心」という話をします。

昔、あるところに一人の男がいました。その男がお釈迦様に尋ねました。「お釈迦様、お釈迦様。地獄と極楽とはどんな所でしょうか」

すると、お釈迦様は「それでは地獄に案内しましょう」と言いました。

さて、地獄はお昼時でした。地獄では粗末な料理が出されているかと思っていいたら、なんと豪華な料理がテーブルに並んでいました。まもなく、大きな赤鬼が入場の合図の鐘を鳴らしました。

すると、地獄に堕ちた人々が集まってきました。どの人もガリガリにやせています。目はつり上がり、顔色は真っ青でした。たった一つの入口から急いで入ろうとしましたので、転んで泣いている人もいましたが、誰も助けようとはしませんでした。自分の好きな席に座るやいなや、自分勝手に食べ始めました。まもなく、あちこちでケンカが始まりました。

「お前の箸がじゃまだ。どかせろ」

「うるせー、お前の箸こそじゃまだ」……

それもそのはずです。自分の腕よりも長い1メートルもある箸を使って食べていたのですから。20分ほどの食事はケンカの中で終わりました。机や床には、食べ残しのおかずが散らばっていました。

次にお釈迦様は極楽に案内しました。食堂は地獄と同じ形をしていました。もちろん料理も同じです。入場の合図が鳴りました。すると、みんなにこにこしながら、並んで列を作って入ってきました。自分の席に座り「いただきます」の声で食事が始まりました。

周りの人と楽しそうに話しながら、あの長い箸を使って食べていました。長い箸を使ってごちそうをさみ、「どうぞ」と言って、自分の座っている向かい側の人に食べさせていました。食べさせてもらった向かい側の人は、「ありがとう」とお礼を言うと、今度は「何がお好きですか」と尋ねて、こちら側の人にごち

そうを食べさせていました。お互いに、相手の欲しい料理を箸でつまんであげていました。どの人も、にこにこ顔で、お腹いっぱいになって、楽しい食事が終わりました。食事のあとの机や床も、それはそれはきれいになっていました。

地獄と極楽を見た男が言いました。

「お釈迦様本当の幸せというものが分かりました。ありがとうございました」

それを聞いたお釈迦様は、にっこり笑いながら、うなずかれたのでした。

お話は終わりです。

さて、みなさんは、誰もが、このお話のようなお箸(の心)を持っているのです。大事なのは、そのお箸(の心)をどのように使うかなのです。地獄のように使うか、極楽のように使うか。それはみなさんの心が決めるのです。

友だちを思いやり、友だちに思いやられ、感謝し、感謝され、いつもにこにこ笑顔、今以上に皆さんのクラスが、そして手良小学校がそうになってくれたらうれしいです。

みなさんは、具体的にどんなことを心がけて生活していきますか？考えてみてください。



手際よく刈り取られていきました…5年生稲刈り



大切に育てたイネは黄金色の稲がたくさん実りました。30℃を超える厳しい暑さの中、5年生の稲刈りが行われました。

「10株を麻紐でひとまとめにするよ」と教わった子どもたちは、「あと2、あと1…」の声を出して数えながら、イネをていねいに刈り取っていました。

安全対策もバッチリ。鎌を使わないときはカバーをつけ、こまめにかごにしまい、何度も水分補給をしながらがんばっていました。

「はざ掛け」は束ねたイネを7:3に分け、交互にはざにかけていきます。向きを確かめながら、しっかりとかけることができました。

体験してわかる「昔」と「今」の違い…5年脱穀

はざ掛けしたイネは好天に恵まれ、すっかり乾燥しました。5年の米づくり学習は「脱穀」にすすみます。

手良郷土館には昔の脱穀に使った道具があり、まずはその古い道具で脱穀を体験しました。「こきばし」「千歯こき」「足踏み脱穀機」の3つです。

郷土館を管理されている地元の方に使い方やコツなどを教わりました。

千歯こきは、思った以上に力が必要で、引っかかってなかなか取れません。何度もやり直し。足踏み脱穀機はたくさんの束を高速でやろうとしたために絡まってしまいました。「一度にたくさんやると上手くできないから、少しずつやるといいよ。」とアドバイスをいただき、見本を見せてくれました。古い道具の使い方は難しかったようです。

翌日。地域の方から脱穀機を借りて脱穀。残りの稲を脱穀すると聞いて、「えーっ、また脱穀?」。苦労した昨日の記憶がよみがえり、悲鳴を上げる子もいました。

しかし、この日は機械。どんどんと稲束を入れていき、きれいに脱穀されていきます。速いに加えて、ゴミがほとんどなく、みるみるうちにお米がたまっていきます。感動していました。

全ての脱穀が終わりました。

脱穀を終えた日の給食、ご飯が残っていると、「もったいない。あんなに苦労して脱穀したから、残さず食べないと。」と言って、おかわりしてくれた子もいたとか。

お米作りの大変さ、お米が食べられることのありがたさを感じる事ができたようですね。



収穫したお米を使って来月には「収穫祭」。まだまだお米の学習は続きます。